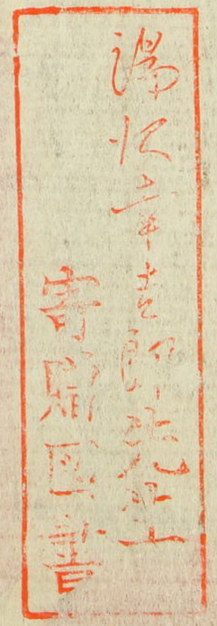
東海道中膝栗毛二編

下

へ13
4302
4

道中膝栗毛後編 坤

へ13
4302
4



早稲田大学
教育学部図書

20515
<2000-240>

むこの形のトコ
まちらいて「きてこハヤ」「コイイ」「ドウ」「ケイ」「ウ」「こ」「ハ」「ヘ」
あ〜ア阪とうてきこが家ゆう「エ」「ど」「こで」「ハ」「女房で
どきこきこすぎれこぶこいぶれゆしてきこと「ハ」「リリ」「ア」「ア」
いこここ〜ここ〜こ〜まめもこの猫へすんぎるぜ
おうもつけていう猫へ「ハ」「イヤ」おめ山ヤアこうげを
かけてきこト猫めこのはこ「ハ」「ゆんぎあ〜ふ」「あ」「ぎて」人
イヤあう〜。めへきこぎこてあうハ「ぺ」「てうめく」「ト」「のこさま」「ろて」「きこの」
なあまれぐひと
うちうけてヤアこれハ。まぬぐひふつんできるぬ。ろて

きこ。こ猫へ「ハ」「ト」「ニ」きこ猫へすめう「猫」「ニ」「ぞ」「ぬ」「ぎ」「ろ」「て」「ぬ」
めへぐ金こ出やるふうとあ〜ふ「ぎ」「ぬ」「ぐ」「ひ」「ぎ」「す」「め」「を。
アまめぐ「ま」「ろ」「い」「ぐ」「く」「ハ」「ハ」「ハ

ハ コウまそやさんごてらまちん宿へ行くの アイ
むこのとのたちのうちよ アイ おせへト 出くられる
内のうどにて
ハ オトハ ぬんかせへト ぎろとそうこうれべてこの四ぞうで
もちられよとて四ぞうぐん一つ
とおぐれてらひしくのちんぐい あるぐハ七十ちられあやぢいろうの
きえよりとるそうぐ ぐぐいまて ぐるべまるよりぐうく
ゆうろそぐる おぐひしくう ぐあんれいあろう 一人ハ六十 金の あやぢ
一人ハ七ハのむとめおいづるとまくこます わらぎれぐうけのあーと
のぐー 史よあろてうろ はれのむでア
れのえぐとろ あういろへらぐるぐう とけちくまちまり
ませ ハ 又ーらと今夜とめてうんるせへ あぐち 寄
ぐまま せソレそこふあぐあろ あちよう ゆまだるさろ

あぐとあるひ ハ 孫 ぐまうん 孫 ハ 孫 ぐまうん 孫 ハ 孫 ぐまうん 孫

そしてまちハたこうごアのつ〜こやとまうらふさうら
ぶがおめてこうごうごんぐとふんぐろくぐぶさんのも三合
むこうしやアあ門えぐいをこえ足けてらひのさうら
トあ門おくんぐいこ絵もてくぐまちゃ見んとかしまてらふうち
ぐし合の子ぐ合ハ絵うまこハハーぐ足こうぐだうまたまくて
こうこと文のそこと文ちまそて一ふこうこのお点ハさぐ図。おこ
ぐのおうぐこうふぐ足しぐめハおこぐでんこちる
ゐい図ふ出ふこアり一ぐまるさふこ足ぐ
ハアこのこ絵ふ高ふ図ふ絵のうこうゃーぐこうが

ヤしさ赤人といふるアたあぐう星ぐなくちゃアぐりち
あけぐふもあんぐとてるぐきゃアあぐうゃさるい図
ぐハアぐ足ふい付ふるおこぐふ木ぐゃぐこぐふこと紀
あんでもハアぐ夜のこふつ紀ふう秋へぐりけて毎
日ぐ。ぐ上ぐく凡のおうこぐがありけこぐをぐんハア
あんでも今こ低のうきぐ紀こふていろく首さア
ひ神ふうまハいてこふけもなんこをおりひつこさア
り一ふ二ふこその一ふ六ア イヤサ 第五ヤ をおふぐめゃこさ。

あふぐ扇ぎゃの指おれゞゃのくいろく色た
どばなくくいんで奏法ゆりゞゃり（ハニ）風ゲ
ふんさふよりて第五とふんどふいあんどごの（され
ゞさゃ。四ーゞハゃおりいつ況あやゃ。あふゞ扇ゞ
あちく。こひやうもなく風ゞふんでおるゞ。でそ
ゞいよ。ゆゞろうゞくちさ。ちゃゃそろゞおのゞ
人さゃの同まるこゝゆゞもゞふ況こんで。歌ゞの
法ゞゆゞりものゞこんゝ出来るゞんゞおりこ

かゝゞそこでハゃ。四ーゞゞ三味のウーてせんの俄
あくく 音ゞ。外ふあゞゞうせうゞ（何糸）ゆんるゝ。こんな三味のウ
かゞゞふーゞゞんゞゞい。そゞまるゝ三味せんやゞもゞ
ゞふ曲ーてゞせくいの猫ゞもゞ歩（ねこ）教されゞいくゝ。
そこで茶ゞもゞばゞ（を上）ちくあゞて。あんでも せんの
第ゞものゞこんなゞちゞなくゞもゞゞこゞ。四のお
ゞゞりーゞゞりゃハゃ。ゞでゞ第五ゞ茶のウ人ゞ初
めゞくくふゞいゞくゞゃちゞいへなふゞ。あふゞハゃ。対上

あうぎゃうと。ぶぶでもものウ仕入へてゝいるのハつまらい後
（コリヤアハ）いゝおりハいつもぶぶ。大ごうの生まれこうふ（ハアヒ）ひろ
もうまこまのしないそこでヨーもハア見ぬでまでゆユ
まのウして。せろぴ（生姿）まゆうるぶしおりつうまゆ。ぶぶ
たづまヤ。こゝ。ちよせんハアあゝ（何条）ゝもいるい
こんぶゝ。愛（ろうき）記のウしてお（ろぶ）張よなりやゝ。（ろく）兵第世
ろいハおりよふ者アなゝるんりんぶアり（ゆゝ）ハア
感（かん）ぶるおゝ。ぶ。ぶ。ぶ

ぐもさまへ。あつこちらへ。おはひなさろ。そこまろとハア
そこ。雪ゑどのが。接のかぶり。ちいて。くらく。尾とうちゃん。
病もう。おこりとこそ。ぎるる。ふあふがをそ。ぐ
ぢくのうへ。なるべんしも。ぬ。ぬ。ぬ。その内
て。表はのうしそろ。内。和さまへ。ぢゃ
りがきと。ゑさなんが。ぬ。ぬ。ものの。ぬ。
がられ。ぬんどろのう。ぬ。まして。ぬ。ふハア。ぬなれ。ぬ
よりもぬ。ぬんなるふ。ぬ。ぬぐはぬの。ぬ。ぬと

むふ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬりひなさろ。そこでハア。ぬ。ぬくの
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬどのう。ぬ。ぬのはぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

あてばうのうなうゴリヤハアあんとるてんぐておりて
いるうち文書の雲どのぐまてこれのむこどのい
ハア。熊せうくんあ同ちて鎖ふがらて呑ゐてこの
きれしゃ」さて熊しいてんぐてゆらもきるぼ
もハア行狐のウりぐれこのうすひちうほしてぐ
あんてきぐんせうてぐるんてんぐい兵代ゆアむきとめぐ
雲どの〜種とあうたてんぐうこ鬼ぐでもてこある
ぐい。それうハア狐雲のあとたぐゆぐい同んで。

あんでも鬼のまどうむよりゆと成弁さんへ
形のウうけて形こ示ぐ同果をこてアはれこる
ぐ成姫でごこうやきて。そこてハアゆ〜きもちうう
のウおこて見れ形この示鬼ハうまぐ去も
こんなふ法見ん人るのまどうむこらふよくくの
同見ちぐこあきこあて。最こ戻ゆこてきようつれて
吹乳こおりひこうこアりゆ〜ともどぐりん
ムこ合りるアなんこおりやアたるぬきようまる

さうへとむすび合ぶ紙ゆへ、トかうるをうちたるを
ゆめぬぎるとだ「サア」こんなぞそぐらもあいまを門がゐて
あてうりて
世ぞいろ〳〵ぞ〳〵〳〵吹風の女のもうべたうこへあがて
紙ぞもとだい トかつぎ〳〵と言らくけて、もんぬいのむきあ
るとぬしうぶろ、あるーの中やぢもしぜん出のもうきえるるへコリヤ
ちんの手あるあとひろをいろうのたえころけて 紙
少仮ゆりるよふこへ おいてもいへまるふいうへトうう出
詠二司ノ性礼め、おいちめよとあるこうこうのへ切
おいこいまくしい「さうきうもたてうの間そうとる

をあぎうろうろ尾と法めあつうしてもるとそてらこぐ
おめへまうめへ詠二うをとつくぜうをそなんをあ
姫とぶいちめてひんせしめ詠二おいおとぐーうをうく
うぐちをまうぐ紙うかる本貸ぐのうのひびーきむぐるしの
たうをいいひるぐう清くべ見むーう屏風も破れた
とのる風のまる いてもう交ひ猪ぶ同ぶえてぶ
八あうを伺ひひえば。猪ぶ猪ぶ別れのうけ合新ごう
スウ〳〵 ムニ五ゑ 附ぶいよ
あういるし〳〵まうをやをををうあうを。

さぶろうとしてよのつくしたらどろとうつきこうらいへあがうをとれば天井
へくみけたのこうてそのうへはもりをちやそれがあるくしこしりく
とうろうはおどろかたやがそこにはたひはるのてさがりまいりむとやしと
おりのおだやかやそうろうかとんのやくたいとこそろそろるてまりしゆそろ
おこそびだでァ「ぐうれぐこあゆそうョ」をろトりやとくはぶハうろえ
やとさるし「ぐうれぐこあゆそうョ」をろトりやとくはぶハうろえ
ゆげしこしとひるうしよあくしみのしぐけをさておろうこりのし竹
さのことかえぬきおくしぐきうおちるおとをしくかうくストウン
内のあやぢ
やとさるし「あんぐこく」こうらいのだぐ「あんぐちをしるいげどろ
ひやしもなんぐこんるおきるさろく」ぬちしるうぶも
ふァ「ぐろうんちとじこぶろうとうけるさろぶろくろ
くしぐあんぐちやんぐちをれやなるれぐこてはあやいうなぶハ
てんしゆうとあこわさ

下へおちるさとこうぐゆうをあめよりまるりのしゆくおちていろうこうるはるうぐ
あしふこうしこうんぐうひうこうゆうさぐうこんれべやしけるるのぐこうう
なううさそいぶ内ぐんのるぐくもちしーしくうきうちゆもおりさうこん
ぶんとのまるうけいぐんとちうるよるうをそりて内のおやぢ
「あんぐちやしけさるのゆへおちるそそんぐトぶ内ぐうのこうこうう
けべおりひうけるくやハがちゃぢイヤとの人り内モレ冠延れへぐこう
ちひぐさるゆへきもとうぐて「イヤ」
まいうまきと「ぐうァいゆ内りやいどんこァまあ。アセミ
そこくさちうこ妻内さ「イヤ」ちへゆ役ふおきこあう。
ツイ戸まぐいとして「アニ戸まぐひとここイヤとの
人いやとけさるの中ぐ妻あうくイとまやせぬうトぶうんの

うちをのぞいて　ハテ　こんさアこんなに
ハテ　アイサ　ほいか　指ふおりて　おちやめさんこと
ばさく　嵐じやアあるまい　指よおりて　あんこんぐ
そして　アガ　天上へあつらえ　ぜんぜ
と　言ふひろ　ろうの　やこうい　ものも　あつらえて
それとさて　ふトいろ　ようだが　ありて　まり　イヤ　ちよ　ぜん
どうも　見て　もハア　ちよ　ふなつ　やがて　ものふう
あやまつて　ちよ　ぶ　ちよ　ひとつ　ちよ　ひこ

あさんおやちゃ　ありこんさアらがちがやアせぬ
見て　ちへ　二年　年も　こんちゃ　ちゃ　ちゃ　あまし
こさア　中絶の　ウーイ　ものまと　ものア　ちよ　ちよ
ちでアが　ちよ　ちよ　こむ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ
ちよ　ちよ　でも　ちの　人ぶ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ
ちよ　さん　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ
ゆり　おこ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ
ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ
ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ　ちよ

〜てくんかせ人ト　ろくじゅう歳　もも〜もぐ〜ちをそくて
ちろる〜てぐんじゅうのつくこひちんかく〜さ〜ぐ〜きこ八もりてこまいろう
ちまいろれば〜ぐる〜よぐあけて酒ぐ小八ぐろう〜よろ酒
とこちいでいり八二〜きこ八ぐへぶかまこぐの小田ふの酒でへこい
ろまぐ〜八二〜きこ八ぐへぶかまこぐの小田ふの酒でへこい
ろのそこことぬいで紀年あんぐこ〜ぐ又ゆふぐへ
二ちいをぐんぬいで二百こ〜ぐ〜ちちぐ稲へぐ
八一ぐ中百同ちぐ人も稲べいまいいぐ一ぐ〜稲ぐ
野れのむまとめ〜ちのびこへ
さてこそ　六十の　波めく

ゆかしゆかしゆかし

月でいろびきの嵐がいくふかおいくるひいてきこそ彩
のかんぐ〜ハ掘(ほり)ふく三味線(さみせん)の糸(いと)をまるがきからぐやしこそ
ぶゆ〜ぐのでんがゆうぬといつなぐ〜ぞまんど〜をにほ
ふへてゆるひてゆるくなるわどゆ千代(ちよ)〜なぞしなのうまを
そこでゆ外の嵐がいくゆ中へ彩のかんど〜ふうぎろて
三味線の糸がまるもやぎぐりのへこあ〜おいらぐ
ひいてきこゆ乳のかんど〜ともゆるうて見よかとお
かあぐ〜ロふくふへてゆるふとゆ乳もチンチン(ちんちん)なりや

〜ことひいめうぐ〜又ふ本の嵐があれハふハ〜
ゆ〜ふ男のかんど〜とひいてきこゆコリゆるひいちうぐ
う〜級(きゅう)いぐみで皷弓(くきゅう)の糸がさろぐろかとくふへて
掛(かる)つてうれぐづこづン〜義太夫三味線(ぎだゆさみせん)の糸ぐ
うゆまそこで嵐ぐもぐこのひいかぐきぐ彩や吹
乳のかんど〜ぐうるふいひいこ弱(うす)い三味せんの糸がまる
ふなぜ小ハとゆ〜ぐふかんど〜ぐ義太夫三味せんの
糸がまるぐろくとうつて〜さろとの嵐がまぐ〜く

めんぐくうりやアそのもぐさぐばへぺだそのもぐさぐばテ小八〜
やうぐ大うぐ〜〜掛ぐろうぐ〜〜小八〜〜〜

はそもおりげふやうをくまの孫ふいろう。爰ふあ
中げるる茶屋よりこの茶屋へ
はけさ。ぶんごと云こゝ茶屋へ
おめへの家とはこゝいつもおまはをでめでえしふ
はこのこはいちつさる時はんさよりうあ大きくるくさ。婦如ハ
まをこの可ーいるどもハおざんるい。そんなう孫う
インまを。子がるけあ茶あ孫もおざんるい。ハテノおめへの
孫でるけあ茶あ。ぜーうごとのう孫であさ。インま

ぞるさまあ茶あおざんるいさなるつのかこ茶のまでお茶へ
ハあをそ。ニウおのまの茶さがうふあまへくッレ
ちへはこ。ちこのこ。ちへはこ。ちへはこ。ちへは

ありてきこえいつこうきやうまもなくまつ
まつこそなくるくはつ屋のしゆくとうきやうを
屋くるし　ほうさの　指ごとうちまをして
ほしの　屋ふ　あの　兼　あがりこう
あの屋　こそれ　あの　ぬ　ろけふかう
まん　るの　ぬの　るかいさ　屋ふ　く　ぬ　よんを　ナア
ものんぐ　ア　ア　ぬさんぐ　なア　まぐいイ　おせさ　ぬてね
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
このやこのだこ　まこだりとこきアぐるぬいでふ

我ホ
うこうもやこうまをるこい　ぬア　く　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

くるやアゲハさるくり「アハ」海屋のかくあめいきよう
おんかるうぐあうとふかる時分まやアがり腹の中へ
ままとまぜて六寸やアげこそれふあんざくハア。
くくとかるとむせうまぜ字とまなくへのイヤ筆
紙巻をうぢれのといろくるゑこまきやアげて
うとあとこの体陰ふ仕よあとこいやアげこそまと
くふものう業さしるドウ「まごだ人」やをかてえん
おのせう

[illegible]ちまいちやアおるぐざるおるぐざるハ
元うはいきアゲ世ノ口ほのうくうう家中うこ江屋を
二百てのせくこ屋うこ屋て多い且形ふ長
屋まてくるくこ屋形ういふまやア江屋まて二
百一やア安くこ屋てと二百まてやろふそん
さ代ハ海ハ百ふこちくくうて呑せるとこ吉
田の的ぞくこうあくこ海と船巨志門こそれうく
又いいくるふやアコリヤまと中主やア一日おまとう
てあやんて墓邪さくこくくうくうちあうてあ

をばおまふのせよふとい見ゆ。コリヤハアあん
るこんさうア我ホ乘ふてこアやアさとつてもき
くるいは形よせろひらうふのれとうてそんえん
乘保餐と二百やろふとと物の本の立場うそう
ぐうとをいのせてはこへるとおきろをきまア
れのさうまあ乘ろふうとおまアとうさんて
ざそうんやろふと又二百下さいさあんなへい見
乘いめうさあやアなんめんさーこをーの内出るまつ
いびきとく一コウとく一ヨイは形あぶなん同をさま
なさろとび人はこされ一るぶ指うあうぬうう稼ふけ
が出るぶきのふ三湯うう乘さるべよいるでありさ。
そしてるさがさんぶざ乳のよい男ふ三湯うう泥
はへ百ゐ十で稼をしてこ乘ふてるさがいのふは。
は形はこんなでたあいるふ乘ふて。今ふ湯ふのふ
めうさふぶ稼ふうもなふ泥などでたきをひて居
さ夢ざろふそれがきのどくざうう駄餐ハモウ

りゝひまきとまいとつくあるぞれくゝ三まいだゝへ
くるとゞ長ハるのくゝで縄がいこまをせうぢと
ありてお休なさゞ酒でもわゞるなゝ酒をへころ
ちゆうあげませふゝくるゝこのかうめゝ百万十
くれて泥ぼへくるとゞさるの高くまでおこゝでと
こいゞ耳ゝゞるへを孫まをとゝ孫ふるとゝて
ゝ孫といゝ高れ鼓ちんハ耳ゝゞ毛をせませうと。
又百万十人でくれゞあんるゝものよへるをもない

りんゞゝ　ゝゝゝ四ゝゝるとゝ川ゝ
てゝゝあるきるゞゝ　ゝゝゝ
入あるむゝもゝゝよ府中の高くまつく先ゝ
ゝゝ川ゝゞゝゝるへのくゝへゝゝゝ
いゝゝゝ出ゝてゝゝくゝゝゝんでもこゝ
ちけこまんとゝきゝゝハりゝゝもゝゝ
ゝ二月ゝ出ゝてゝゝ月ゝ百万十人
あふゝゝゝりんゞゝ見ゝゝ二丁所ゝゝゝ見
ゝてゝゝゝゝのゝゝゝ孫ゝ安部川乃
ゝてゝゝゝまをゝゝゝ孫ゝゝゝ百万所ゝ
もゝゝまをゝゝゝゝるゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ屋ゝゝゝゝゝゝゝ

ゆきて家より壱屋ばかりふれ打ちゆくなどぶの安部
川まちとゆくるばあべ川孫勘の母おそで。五郎ちう
さとこ引をして大門あり。家ゆてるとちり廓ふ入て
又ふ表例ふ彩とかくべで。ひきみるをげきのまる
解くべ。又せ法元のおりむきばまる所の吉原所ふ
おりよりて似ちう。表とおりきがまこ本場ふ級
のつきろ相おるどきて。母桜のさ江を抜ぎして
ちぶ屋おちうの茶屋の女ハ猫杉の弱ア話とぎき

おちうあくの神くふ人ハちうくい役引茶軽ゆて。
いづきも祖又だちうおちうぞそてあいふ茶金
げけの蕨あれべ。樽のさたよりとうるどくつけ
てうぎあくひ平ちうあまびけふ男女い屋根ふ
の人のでく。又ふ凡俗宮まちうぎ。又和ふ宿ハちうれ
向ちうちうハ地まちうくふて。ちのちうぐくちうくちうとき
山ぞーのひらき角ト話ふ竹のちのくふのちるとをげちるさたさしのてね
ぐハとるちびちうぶちう。一あんざイ。ちんぎ出まるこことをぎけ
てとちうあアちうをアゼあれふぎハけちうくるなちう一ヤイ

いつち
あ。あんまりさそつぺるこさしてやらぢい（これはこませることらよがこと）
さらの「くらぐらぢいがらいが合まーこかんよるさいト
はつるるそれなはてもい　地巳
ウはさんとのうき「アノ孤ちのきーふるる女のつらが。
間さるの天の面のよくぐアりゃ　ろこて切アぜへのしど
くいはくぶ。掘ふのるぐらぺさ。笠せまふとアんるよくふぶま
分ちちゃア　そぐ　ろいハ　今れうのこてのぺ円のうちあくこうん
ろ七間町の　ぐ　ぐのよくぐナア　このうぢいしのこぐうろさ
ぐぢうぐ　宮の　ぐ　ぐ又七ろ丁のまぐうふとらふいきぐういろふまぐう
ふの久てあ。まるぐざいくのまうぐとのるくきのもうふとあぐうえ

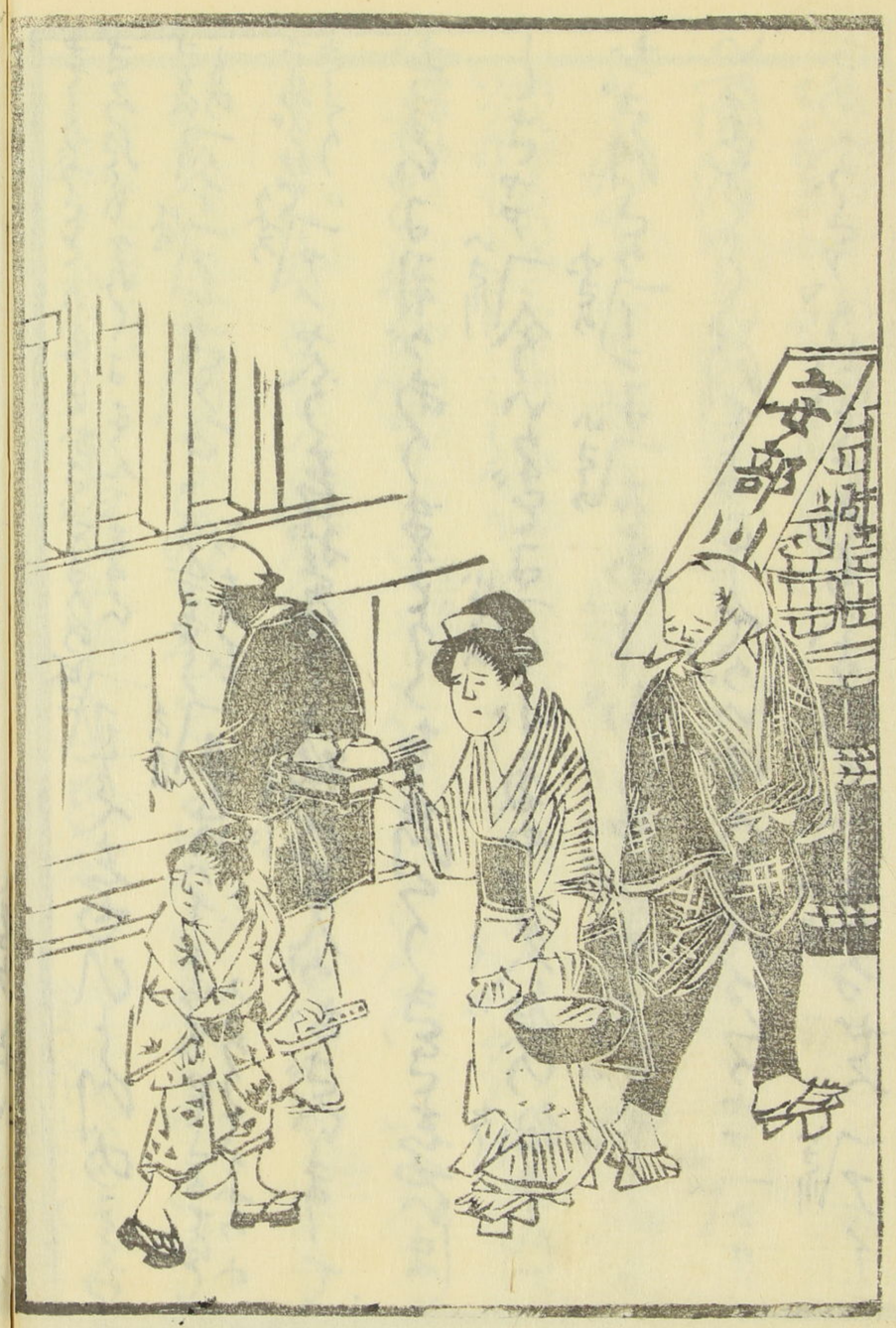
まるこのぺ　「ナトマここぐ人あぐうふ「まちるるぐうふ
えれるぐ　こてふ方ふ。接ふ。ぐ式ふ。ぐふ。ぐふ。ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八吉


安部川

この面白いちあがり旦（内ロクいの二へしゃうてうつれぐちハすのくるふうぢうだとさけて
いで）（ちかに）で今いあがってふおさうまと（ロクいの）「ロクと」今を
くやまと、見い（ぜん）桂をつ、已（いこ）浸いちさのくやまと（トくい）
面白いを（ぜん）りてう（川ア）変でいろもひつぞくふりらう拾くこ人
ご第ちふ今ち桂ちろとい変化（ぜん）あづしい（ぜん）「コノ
ちろ面いちんぞ（川ア）あぐ川のあ文どんかそぐ二耳の
ス（いき）紙の字ちの表（ざい）ちいすりのぞのりく（上ちらう下ゆうさんぐ）（いき）
大だいのこうさでまむのをまねと火（ロクめきそ）とちりさーきへるくとる「ロクそうど」笑んぞ「なん

でもおざうます（ロクべ）（アリヤア）性（せう）の良い（きく）表紙（ちう）
けで（ぜん）出てきたこのでおざんます（ぜん）「ロクの」へおも
しろ（ロクど）ドとくトあはそとろうざーきとのぞき（アれだ大ぜの地（ぢ）ダきまくけうろと中ふくうまた
おまいどんぞうあ（ぜん）ぐつちイハなぜきまーロクいの今（ぜん）ろの中
「てよどやくく」「ロクの」おざろかーぐとこやあ（ぜん）さんぐ孫（ちう）ア（ぜん）
ろうもむでもーどあおざうます（ぜん）ロクいとのきまくい山氣のくい「ヤと」面白（ぜん）へ
ハイ（一吐日）ちくよいもきん（ぜん）日やろうもこ事ぞくくおりろさぐぐい
用ぐてんたて（ぜん）ろうさ（ぜん）ろうさ（ぜん）ロクとっりやアハイてとじゃへも

川なべのあんちゃんどんの瀬合でいうごとこアいの
こアるんだ。アニハイ。後の光景あんばくしゃ。ちょっと
とこアあるし。日天さまうけで。まずい。不味。おやアおざる
るいヤア。だあもてそれぞれもてる。巴の花山さんは。
別屋でいうまどこアぢひとおざります。ないへ。あ。アニ
ハイ。そんごこアわあこんごがづなくそよいやアせごと
るまごるいト。ちょっとそうこアの間のあと。先へしこるん。
うちうけとつまこあげきやろこと入とりちそく。
もうくいこしたこと。ぎーきくたちう。ぎーきくたちう。
よくおざります。さあ。ようけきまーなるいんこーが
さろ。ゆもがんよせごこアおざります。ないよ。
もハイ。はは肉でのあん鍋のくくといこんが。せ多でおざい
ますと。えるアは。数をなーつごされちゃアおうごい
ちうの巻べごごよくがおざります。ないよもハイ。
こまつきうの孫ちゃおざりまいちのよる。性根乃
見るい表こんんせーめのこあ。ぎーげせごこくと
んさ表いまーソレ交来さんさうきの刺刀を

めいておざいまし[あり]やあ[や]ア。[私]こちらぞふせと
とおりめて[とこゝ]ぞふせぞてりん[う]ぞ[繁]ときてぞふゃア
トクこをそとりてえちゝゆが[あり]て[ゃアレ]コリヤさて往なさろ
きゆ[ゆ]ゝうろうこ[ち]ゝ家とりて
く[ち]ゝんぞ[ぞ]よ[ゝ]ま[とこゝ]ぞこをこアおざれまし[あり]ない[あり]そん
ぞゃうてばちゝがけるまげのちょんさんきう
おんよ[き]そやそよヲハイ。きてうぞとこアゆうしなさろ
[とこゝ]ゝゆるこぞとめんで[あり]アレこやや[とこゝ]ツレきてうぞとこ[あり]ゃアレ
こやそりゝゝゆげとととうまんそゆげさべとそようそうつて
[あり]こをとむちゝうちゝうきとろこいあきゝくげん

つゝゆそこるつけぐこゝるれがまげもびんも[ゃアこ]ゝやハイ。あと
おちてとまいきゆくハあこゝるとるびまれて
まアむゝ[ゆ]ゝとなくしこい[ゆ]ゝこゝるゝ[ぞ]あ[チ]ヤヲホミ[あり]ゃレ
[ちゝひ]笑ゆ[ゆ]ゝぞゃアるいゴレ[ゆ]ゝゝいハイ。てうぞゃへいくまい
くうぞあこをアゆ[ゆ]ゝゝ[とこゝ]コヒーゃアきうほし
るい[あり]アレハイ。こをぎくどのがかくしこザアあこをアえ
やくゆ[ゆ]ゝゝあさろ[とこゝ]おまいハイ。これでもてうぞゃへ
いうぞろ[あり]モウいうるゆくゝ[とこゝ]ゝんとうふうゃア[あり]天照宮
ちゝ[ゆ]ゝをさこをけていうるい[とこゝ]まんなう[なうぎく]夜宮さん

ごてあげさまをいまし〜トことこの夜のさてづまをくしてうる
つけぐさを出し〜ことさせべ
ヤアまごごろなる〜モウそれだろう〜アヒハイ。まごご
ろふびんぶそこらゆやアるのいうるてくれなさろ
コレカあるヤアそれぐ〜トおしんるあこをさぐりまりて。
とうぎて〜ヤレ〜ろぐどいめふあろこ〜ヨホ〜〜トはんよりの中
ゆるりて。いろ〜あれども。ゆちはれがいりづくのうちでもある
アあくを。ゆるる小八ハちろのろれをよびを
まごごがよろぷどおりろ八ろ。ひさでうど吉年のとる。
一ぬが中田やの勝山はまごろまをて附。あんるざ夜で

あるさごうさとヒる〜トはんりの事ろ〜モウお庫まいさしま
せう。チトあいちろ〜トきこハハおぐろのあいろのをやへれと。
ろぐ〜ひきとろれて。ちぐろくまどろれて。郡て一まいの夜ハさをてあろ
ろぐろとあ〜こ〜ぶ〜ろ弟を記出れべ。ハも用を持
ろぐろ夜ふ来アて。ちつ五こ〜こ。材るをおまるれ。
くおろ出て。移移をとくふひきヒろれ。他る
町さ〜て〜ろぐ。ぬを来り長ぶべ。ちくも宿出報
ろ〜の来ることの〜猪をあるぶ。夜夜あろ

まゝ／＼ホーてゞぐて山ゑと出とるゞ今ゞぐ乃
ゑとまゝとぐゞよゞぐゞぐ／＼語和といくうふいとる。
ゑゑハ名ゑあゑあゞ川りちの名和ふて表刑乃
ゑゑ屋いづまも表要ゑゑ屋ゑゑ名ゑう川めいづつ解
とゑあゞうゃじゑゑゑゞうとゑあゞうゃじ／＼川おゑゑア
めゑべ武糸がりちとゑ川てゑ来ゑゑモウちてでん
ゑふめ川ゑゑゑゑ／＼ト猶あゞ川の川ゞ川ゞんゑ気
おのゞうゑる川ライゑゑ屋ゑんゞ川ゞうんゞゞゞうう

ゑゑとゞゞゑゑゑゑゑゑふゞおゑゑゑのんゑゑまと川いゑゑゞ
川ゑゑゑゑゑゑ

コレ　おとゝ　ときさま　川ばた　おさとと　うんろく　はこ　ゆき　ぢう
ひとあし　ぶらり　ぶらり　ぢ　ぢ　ぢ

まちかさろトゆいうよびものうらもむろぎ「おるぎャ」く
しやざろくとおろうろう
このいそぎんれよ。あゆよりけるちまりろうんく
トけんしくよびこうるまらしぐちまろうちだしとりをぐ〜ゐゐ女房
よんぐろうこんおぐろのようはかりうぐ〜るぐやるうくまちのこまとせ
とひごろぐろく「ひきまろう」まり「ん」ろ。ゆちャあのとこのおんぐどャどんこぐて
るちまよすしてゆこぶやうまーいんぐゃャ「アニ」ハイやうまいい。
りんぐ。ゴリへそこへお猪と二ぜんとーらくろ。ゴッレあ盆
ぐひきぐしろャ「おまいい笑のあ〜ろのゥちろ〜ぐろう
「アニ」おれぐちるりんぐ。ゴリャイ。そのちをまよう よこせャ

女房「これろいぐ」ゴッくくーぐいもぐまこ〜かろんろまろう
こまのこぐこ〜ゴリや和まぐつくゆぐ。猪へつくる
のじゃャゆいいこてへよこせこいつまこぐみぐこらちのわ
うるい女ぐトまろこまこ〜ゆるこ〜ろうて女房ゴッレあ。いまろこまぐ
さろさゆぐ「ろ」うまるる。おれぐるゆまうぐうねぐッリャ
のろぐこけ〜ャ「女房」レ〜やうゆ〜ゆんぐゴろ又ぐこゆゃ
和尚ぐょうふゆやろャ「ぐ」ゴリや 摺鉢 をはうまへてられろぐて
そこりろちやャまろ生ゆいはゆるいはゆうこく

まあ[illegible]ぐ　廿貞　「アニこんぐひやうこんぐさるぞ」「イヤ」とろ
あまアトまろこまでひろうてもらうもこれもまりて「コノやらうめへ」トもうたち
をとろてるげるとしをとろ[illegible]ぬトもうこまをもうまハして。
おろうとろ〳〵ぶこをれる「上ろアうぬ」えろうしぐろくけま
きぐ[illegible]てどろ　廿貞　「こんこふまけてのるめんつとろくしがこれも
ろうとところぶ　ところまもうこたる。
むちのかこをる「やしちやぞ」又尺くでもういいさらいらぞアしづ
うけてきろう
まうるさろトまうろうとるぐめる
うう　ぶもきぐうこんで「コリヤハイ」おんこる
こんぐトこんがろうぶ中とろぐ
あちへきぐろちへころげて。ちきるぐ「ちのハ」
ぐどきろ稼べさ尺へいろうトおうさをころへて「ハ」こんぐ

ま[illegible]いぐアろこうけでのるアもよこゆーと
「こんこまるまま蜂」「ハ」をこぐして
きるとろふまぐるこちつそもこを
それよう字体の山ゆさーかをころふ。あハ　しぐ　ふ
籠と乳し。つる　のをこを公がこくも杖　つえ　とちこふ
十　ぐん　子の茶屋ちくちろうで。延ぐふもハぐころ
こちふまぐうこうびれ尺
燈　とう　まきるるやあこまの十ぐんど

ころけて　綱と　うりの山こち

おうぐの為くの　一本　ゆうでぐ　ぐんまとう　高ちゃ

ちゃぶ門　とこさゆ　ゆうろ　一大井門　ゆとゆ

ゆしこ　ぶ　ゆむさん門　ぐ　ぐ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

まもこ　さ　ぶ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ